

ワークショップ

【第1日目12月1日(火)】

1W5	第5会場(神戸ポートピアホテル本館B1F和楽)	9:00-11:30 [J]
ドラッグ・リポジショニングの基盤技術と実践		
オーガナイザー：夏目 徹(産業技術総合研究所)		
Introduction		[9:00]
夏目 徹(産業技術総合研究所)		
1W5-1		[9:00]
ドラッグ・リポジショニングのための分子プロファイリング		
夏目 徹(産総研・創薬分子プロファイリング研究センター)		
1W5-2		[9:15]
ドラッグ・リポジショニングを用いたがん幹細胞標的治療戦略		
佐谷 秀行(慶應大・先端研・遺伝子制御)		
1W5-3		[9:40]
ドラッグ・リポジショニングの手法を用いた軽度認知障害に対する創薬戦略		
猪原 匡史(国立循環器病研究センター・脳内科)		
1W5-4		[10:05]
ドラッグリポジショニングの実際		
塩村 仁(ノーベルファーマ株式会社)		
1W5-5		[10:30]
革新的医薬品創出に向けたAMEDの取り組みについて		
山崎 直也(日本医療研究開発機構)		
1W5-6		[10:55]
ドラッグ・リポジショニングと承認審査		
關野 一石(医薬品医療機器総合機構 新薬審査第一部)		
総合討論		[11:20]
Conclusion		[11:25]
夏目 徹(産業技術総合研究所)		
1W6	第6会場(神戸ポートピアホテル本館B1F生田)	9:00-11:30 [J]
分子生物学と構造生命科学による創薬への挑戦		
オーガナイザー：由良 敬(お茶の水女子大学) 千田 俊哉(物質構造科学研究所)		
Introduction		[9:00]
千田 俊哉(物質構造科学研究所)		
1W6-1		[9:06]
高難度創薬ターゲット蛋白質の生産技術革新とそのインパクト		
高木 淳一(阪大・蛋白研)		
1W6-2		[9:30]
PDIS・解析領域：タンパク質結晶構造解析の技術支援の取り組みについて		
平田 邦生, 山本 雅貴(理研・SPRing-8センター)		
1W6-3		[9:54]
新しい研究ツールや農薬、化粧品、医薬品につながる化合物創出の支援活動		
小島 宏建(東大・創薬機構)		



1W6-4 [10:18]

創薬等プラットフォーム事業制御拠点合成領域の取組

宮地 弘幸 (岡山大・院医菌薬・有機医薬品開発)

1W6-5 [10:42]

創薬と機能ゲノミクス解析

近藤 直人 (理化学研究所ライフサイエンス技術基盤研究センター)

1W6-6 [11:06]

構造生命科学データクラウドVaProSIによる生命科学ビッグデータへの挑戦

由良 敬 (遺伝研/お茶大・院人間文化)

1W7 第7会場(神戸ポートピアホテル本館B1F 布引) 9:00-11:30 [J]**硫化水素(H₂S)とポリサルファイド(H₂S_n)のシグナル分子としての機能**

オーガナイザー: 木村 英雄 (国立精神・神経医療研究センター)

永原 則之 (日本医科大学)

1W7-1 [9:00]

結晶型(スルファン)イオウの測定とレドックス制御系への関与

小笠原 祐樹, 小池 伸 (明治薬大・分析化学)

1W7-2 [9:25]

多機能酵素・3-メルカプトビルビン酸硫黄転移酵素-ノックアウトマウスの網羅的解析永原 則之¹, 永野 昌俊², 伊藤 隆明³, 秋元 敏雄⁴, 鈴木 秀典² (¹日医大・基礎医学RI研, ²日医大・薬理学, ³熊大・大学院生命科学学研・機能病理, ⁴日医大・実験動物)

1W7-3 [9:50]

シグナル分子としての硫化水素(H₂S)とポリサルファイド(H₂S_n)

木村 英雄 (国立精神・神経医療研究センター)

1W7-4 [10:15]

侵害受容メッセンジャーとしての内在性硫黄含有化合物の機能的役割

太田 利男 (鳥取大・農・獣医薬理)

1W7-5 [10:40]

水晶体内過酸化グルタチオンの局在梶村 真弓^{1,5}, 善岡 尊文^{1,2}, 後藤 信一¹, 奥田 有紀¹, 久保 亜紀子¹, 石井 功³, 菱木 貴子^{1,4}, 山本 雄広^{1,5}, 高野 直治^{1,5}, 星野 岳郎^{1,6}, 中村 貴^{1,7}, 末松 誠⁷ (¹慶大・医・医化学, ²旭川医大・眼科, ³慶大・薬・生化学, ⁴慶大・医・臨床研究推進センター, ⁵JST ERATO末松ガスバイオロジープロジェクト, ⁶東女医大・神経内科, ⁷慶大・医・大学院医学研究科)

1W7-6 [11:05]

H₂S及びサルフェン硫黄検出蛍光プローブの開発とその応用

花岡 健二郎 (東大院薬)

1W8 第8会場(神戸ポートピアホテル本館B1F 北野) 9:00-11:30 [J/E]**アミロイド再考:これまでとこれから**

オーガナイザー: 八谷 如美 (東京医科大学)

茶谷 絵理 (神戸大学)

Introduction [9:00]

八谷 如美 (東京医科大学)

1W8-1 [9:03]

アミロイド研究のための新しい実験手法

八谷 如美 (東医大・医・病態生理)

1W8-2 **[9:20]**

Laser microdissectionを用いたアミロイドーシス病型診断の有効性と病早期のアミロイド線維形成機序の解明
 矢崎 正英^{1,2}, 亀谷 富由樹³, 八谷 如美⁴, 池田 修^{1,2} (¹信大バイオメディカル研究所, ²信大医学部脳神経内科, ³東京都医学総合研究所, ⁴東京医大神経生理学)

1W8-3 **[9:37]**

家族性アミロイドポリニューロパチーの病態解析と新たな治療戦略への展開
 植田 光晴¹, 安東 由喜雄² (¹熊大・附属病院・神経内科, ²熊大・院生命・神経内科学)

1W8-4 **[9:54]**

マウスAApoAIIアミロイドーシス関連タンパク質の動態と機能の解析
 宮原 大貴¹, 劉 穎業¹, 丁 欣¹, 澤下 仁子^{1,2}, 森 政之^{1,3}, 樋口 京一^{1,2} (¹信州大学医学系研究科疾患予防医学系専攻加齢生物学, ²信州大学学術研究院先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所神経難病学, ³信州大学学術研究院先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所先端疾患予防学)

1W8-5 **[10:11]**

Aquaphotomics: Water Spectral Pattern as Bio Marker for Diagnosis and Disease Understanding
 Roumiana Tsenkova (Dept. of Agricultural Engineering and Economics, Faculty of Agriculture, Kobe Univ.)

1W8-6 **[10:28]**

アミロイド線維の伝播核形成過程における水の関与性
 茶谷 総理¹, 平松 貴人¹, 板倉 由佳利², 増田 裕輝¹, Roumiana Tsenkova² (¹神戸大・院理・化学, ²神戸大・院農・食料共生システム学)

1W8-7 **[10:45]**

神経変性疾患関連タンパク質と分子シャペロンとの相互作用の構造基盤
 矢木(内海) 真穂^{1,2}, 佐藤 匡史², 山口 拓実¹, 加藤 晃一^{1,2} (¹自然科学研究機構・岡崎統合バイオ, ²名古屋市大・院薬)

1W8-8 **[11:02]**

蛋白質異常凝集とD-アミノ酸；蛋白質異常凝集体に存在するD-アミノ酸の新規検出法
 藤井 紀子 (京大・原子炉)

総合討論 **[11:19]**

Conclusion **[11:27]**

茶谷 総理 (神戸大学)

1W9 第9会場(神戸ポートピアホテル本館B1F菊水) **9:00-11:30 [J]**

最新の生物毒の多様性がおもしろい！ ～その構造と機能、進化そして利用について～

オーガナイザー：北田 栄 (九州工業大学)
 千々岩 崇仁 (崇城大学)

1W9-1 **[9:00]**

日本南西諸島カサリヘビ科ヘビの毒[Lys⁴⁹]ホスホリパーゼA₂アインザイム遺伝子の島嶼多様性
 千々岩 崇仁¹, 山口 和晃¹, 山村 岳志¹, 池田 直樹¹, 八井 宝代¹, 巴山 節子¹, 服部 正策², 上田 直子³, 大野 素徳¹ (¹崇城大・生物生命・応用生命科学, ²東大・医科研, ³崇城大・薬・生化研)

1W9-2 **[9:28]**

哺乳類由来の神経毒の化学生物学研究
 北 将樹 (筑波大・数理物質・化学)

1W9-3 **[9:56]**

昆虫毒：その多様性と選択性
 品田 哲郎 (大阪市大・院理)

1W9-4 **[10:24]**

がん感染症分野への貢献を目指した微生物Bt菌毒素タンパク質群の探索と機能
 北田 栄 (九工大・院情報工・生命情報工学)



1W9-5 [10:52]

百日咳菌と気管支敗血症菌が産生するアデニレートサクラゼ毒素の構造・機能比較

堀口 安彦 (阪大・微研・分子細菌学)

総合討論 [11:20]

1W10 第10会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F トパース) 9:00-11:30 [E]

Structural properties and intracellular function of helical repeat proteins

Organizers : Kodai Hara (Shizuoka Prefectural University)

Shige H. Yoshimura (Kyoto University)

Introduction [9:00]

Kodai Hara¹, Shige H. Yoshimura² (¹Shizuoka Prefectural University, ²Kyoto University)

1W10-1 [9:05]

Intracellular Structure and Function of HEAT Repeat Proteins

Shige H. Yoshimura, Hide A. Konishi, Masahiro Kumeta (Grad. Sch. of Biostudies, Kyoto U.)

1W10-2 [9:25]

Structures and assembly/disassembly kinetics of Ran-dependent nuclear export complexesYoshiyuki Matsuura^{1,2} (¹Div. of Biol. Sci., Grad. Sch. of Sci., Nagoya University, ²Struct. Biol. Res. Center, Nagoya University)

1W10-3 [9:45]

Regulation of microtubule dynamics by proteins with HEAT repeats

Gohta Goshima (Div. Bio, Nagoya Univ)

1W10-4 [10:05]

Multimer formation and G-quadruplex-binding by Rif1, a key organizer of higher-order chromatin architecture, containing a HEAT/ARM repeat domain

Kenji Moriyama, Rino Fukatsu, Naoko Kakusho, Hisao Masai (Genome Dynamics Project, Dept. of Genome Medicine, Tokyo Metro. Inst. of Med. Sci.)

1W10-5 [10:25]

Structure of cohesin subcomplex pinpoints direct shugoshin-Wapl antagonism in centromeric cohesinKodai Hara¹, Ge Zheng², Qianhui Qu², Hong Liu², Zhuqing Ouyang², Zhe Chen³, Diana R. Tomchick³, Hongtao Yu² (¹Sch. of Pharm. Sci., Univ. of Shizuoka, ²HHMI & Dept. of Pharm., UTSW Med. Center, ³Dept. of Biophys., UTSW Med. Center)

1W10-6 [10:45]

Balancing acts of two HEAT subunits of condensin I support dynamic assembly of chromosome axesKazuhisa Kinoshita¹, Tetsuya J. Kobayashi², Tatsuya Hirano¹ (¹Chromosome Dynamics Lab., RIKEN, ²Inst. of Industrial Sci., Univ. of Tokyo)

1W10-7 [11:05]

Regulation and function of the two Target Of Rapamycin (TOR) complexesKazuhiro Shiozaki^{1,2} (¹Grad. Sch. of Biol. Sci., NAIST, ²Dept. of Microbiol. Mol. Genet., Univ. of California, Davis)

Conclusion [11:25]

Shige H. Yoshimura (Kyoto University)

1W11 第11会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F エメラルド) 9:00-11:30 [J]

がん治療抵抗性の解明にむけた新しいアプローチ

オーガナイザー：井上 聡 (東京大学)

岡本 康司 (国立がん研究センター研究所)

1W11-1 [9:00]

CML幹細胞をターゲットとする新しい治療戦略

仲一仁, 瀧原 義宏 (広島大・原医研・幹細胞)

1W11-2	[9:25]
単一細胞レベルの遺伝子発現解析による大腸がんの造腫瘍性細胞及び治療抵抗性細胞の同定	
岡本 康司 (国立がん研究セ・研究所・がん分化制御)	
1W11-3	[9:50]
乳がんのホルモン療法耐性機序とその克服に向けて	
林 慎一 (東北大・院医・分子機能)	
1W11-4	[10:15]
神経芽腫のALK阻害剤感受性を制御するALK結合リン酸化蛋白質群	
堺 隆一, 富山 新太 (国立がんセ・研・難治進行がん)	
1W11-5	[10:40]
機能的スクリーニングを用いたホルモン依存性がんの内分泌療法耐性に関わるシグナル分子の解明	
池田 和博 ¹ , 堀江 公仁子 ¹ , 井上 聡 ^{1,2} (¹ 埼玉医科大学ゲノム医学研究センター遺伝子情報制御部門, ² 東京大学大学院医学系研究科抗加齢医学講座)	
1W11-6	[11:05]
がん幹細胞とそのニッチシグナルと代謝、分子標的	
後藤 典子 (金沢大・がん研・分子病態)	
1W12 第12会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F ダイアモンド)	
9:00-11:30 [J]	
周期的組織再生と体性幹細胞分化およびそれを制御する微小環境における分子機構	
オーガナイザー：岩淵 徳郎 (東京工科大学)	
1W12-1	[9:00]
本セッションの目的：周期的組織再生と体性幹細胞分化	
岩淵 徳郎 (東京工科大・応用生物)	
1W12-2	[9:03]
毛包の異種組織間相互作用を支える細胞外マトリックスの多様性	
藤原 裕展 (理研 CDB)	
1W12-3	[9:33]
脂肪由来間葉系幹細胞における酸素濃度応答性のマルチオミックス解析	
藤原 重良, 石松(辻) 弓子, 松永 由紀子 (資生堂リサーチセンター)	
1W12-4	[9:58]
がんの低酸素バイオロジーで迫る低酸素ニッチと幹細胞性質	
原田 浩 ^{1,2,3} (¹ 京大・院医・放射線腫瘍学, ² 京大・白眉センター, ³ 科学技術振興機構・さきがけ)	
1W12-5	[10:28]
代謝シグナルによるストレス負荷時の造血幹細胞の細胞周期制御	
雁金 大樹, 田久保 圭誉 (国立国際医療研究センター・生体恒常性PJ)	
1W12-6	[10:58]
Defining colorectal cancer stem cell niche signaling in human normal intestinal stem cells	
伊達 昌一 ^{1,2} , 股野 麻未 ¹ , 下川 真理子 ¹ , 高野 愛 ¹ , 藤井 正幸 ^{1,2} , 太田 悠木 ¹ , 金井 隆典 ¹ , 渡邊 聡明 ² , 佐藤 俊朗 ¹ (¹ 慶應・消化器内科, ² 東大・腫瘍外科, ³ 大塚製薬・藤井記念研)	
Conclusion	[11:28]
岩淵 徳郎 (東京工科大学)	



1W13 第13会場(神戸ポートピアホテル 南館 B1F ルビー)

9:00-11:30 [J]

シングルセル生物学

オーガナイザー：渡辺 亮(京都大学)
洲崎 悦生(東京大学/理化学研究所)

Introduction

[9:00]

渡辺 亮(京都大学)

1W13-1

[9:01]

単一細胞遺伝子発現解析と微量ChIP-seq法によるマウス胎原生殖細胞の発生機構とエピゲノムリプログラミングの研究

栗本 一基^{1,2}, 藪田 幸弘^{1,2}, 斎藤 通紀^{1,2,3,4} (1京大・院医, 2ERATO, 3京大・iPS研, 4京大・iCeMS)

1W13-2

[9:24]

臓器の発生過程を可視化するシングルセル遺伝子解析

渡辺 亮¹, 濱曾路 祥孝¹, 野村 真樹¹, 舟越 俊介¹, 中村 正裕¹, 田中 梓¹, 大久保 周子¹, 孫谷 弘明², 田邊 剛士¹, 高橋 淳², 須藤 健太¹, 高橋 和利^{1,2}, 吉田 善紀¹, 山中 伸弥¹ (1京都大学・iPS研・未来生命科学開拓, 2京都大学・iPS研・臨床応用, 3グラッドストーン研究所)

1W13-3

[9:42]

ヒト大腸がん肝転移病巣の*in vivo*細胞周期依存的エネルギー代謝を質量分析イメージングで可視化する久保(弓場) 亜紀子¹, 鮎 彦¹, 向井 邦晃¹, 菱木 貴子², 大村 光代^{1,2}, 南嶋 洋司^{1,2}, 末松 誠^{1,2} (1慶大・医・医学化学, 2慶大・医・臨床研究推進センター, 3JST ERATO 末松ガスバイオロジープロジェクト)

1W13-4

[10:05]

CUBICによる全身全細胞の網羅的観察

洲崎 悦生^{1,2} (1東大・院医・システムズ薬理学, 2理研QBiC・合成生物学G)

1W13-5

[10:23]

光シート顕微鏡の未来

野中 茂紀(基生研)

1W13-6

[10:46]

DNAバーコードによる分子・細胞計測技術の跳躍

谷内江 望(東大・先端研・合成生物)

総合討論

[11:09]

Conclusion

[11:29]

洲崎 悦生(東京大学/理化学研究所)

1W16 第16会場(神戸国際会議場 3F レセプションホール)

9:00-11:30 [J]

鉄硫黄タンパク質が織りなす多彩な機能

オーガナイザー：高橋 康弘(埼玉大学)
和田 啓(宮崎大学)

1W16-1

[9:00]

広がりゆく鉄硫黄タンパク質の世界

高橋 康弘(埼玉大・院理工・分子生物)

1W16-2

[9:30]

ペプチドの翻訳後修飾を触媒するラジカルSAMスーパーファミリー酵素

中井 忠志¹, 小林 一雄¹, 高橋 康弘², 堀 洋³, 鏑木 基成³, 外山 博英⁴, 谷澤 克行^{1,5}, 岡島 俊英¹ (1阪大・産研, 2埼玉大・理工, 3神戸大・理, 4琉球大・農, 5パラツキ大・理)

1W16-3

[10:00]

暗所での植物の緑化を決定づけるニトロゲナーゼ類似酵素の生化学

藤田 祐一(名大・院生命農)

1W16-4 [10:30]

ヒドロゲナーゼがもつ鉄硫黄クラスターの構造的多様性

庄村 康人¹, Noor Dina Binti Muhd Noor², 西川 幸志², 樋口 芳樹^{2,3} (¹茨大・院理工・応用粒子線科学, ²兵庫県大・院生命理学・ピコバイオロジー, ³CREST/JST)

1W16-5 [11:00]

植物FdとFd依存性酵素群の複合体構造からみた鉄硫黄タンパク質の電子伝達特性

長谷 俊治, 金 宙妍, 筑摩 悠太郎, 有賀(木股) 洋子 (阪大・蛋白質)

1W19 第19会場(神戸国際会議場 5F 501会議室) **9:00-11:30 [J]**

プロテオミクス なう&beyond

オーガナイザー: 梶 裕之 (産業技術総合研究所)
植田 幸嗣 (東京大学)

Introduction [9:00]

梶 裕之 (産業技術総合研究所)

1W19-1 [9:01]

プロテオミクスを基盤とした統合オミクスによるがん組織細胞の異常シグナルネットワークの抽出と検証

荒木(佐藤) 令江, 南部(新堀) 晶子, シルシリバニト アチト, 小林 大樹 (熊本大学大学院生命科学研究所腫瘍医学分野)

1W19-2 [9:26]

抗体に依存しない質量分析を利用したタンパク質量

大槻 純男, 平山 未央, 伊藤 慎悟 (熊本大・院生命・微生物)

1W19-3 [9:51]

エクソソームタンパク質の質的量的変動解析によるがんリキッドバイオプシー診断法の開発

植田 幸嗣 (か³ん研・ゲノムセンター・プロテオミクス解析Gr)

1W19-4 [10:16]

ヒトプロテオーム・リン酸化プロテオーム完全解析への挑戦

石濱 泰 (京大・院薬)

1W19-5 [10:41]

The post-translational landscape of mammalian circadian clock: an MS-based analysis of CRY1 and beyond

大出 晃士^{1,2}, 上田 泰己^{1,2} (¹東大・院医・システムズ薬理, ²理研・生命システム研究センター)

1W19-6 [11:06]

糖鎖付加部位ごとのグライコーム分析法の開発と大規模分析への応用

梶 裕之, 富岡 あづさ, 野呂 絵里花, 鹿内 俊秀, 成松 久 (産総研・創薬基盤・糖鎖技術)

1W20 第20会場(神戸国際会議場 5F 502会議室) **9:00-11:30 [J]**

細胞のふるまいの制御から解き明かす大脳皮質形成機構

オーガナイザー: 仲嶋 一範 (慶應義塾大学)
丸山 千秋 (東京都医学総合研究所)

Introduction [9:00]

丸山 千秋 (東京都医学総合研究所)

1W20-1 [9:03]

大脳皮質ニューロン産生プログラムの切り替えを制御するしくみ

花嶋 かりな^{1,2} (¹理研・CDB, ²神大・院理・生物)

1W20-2 [9:21]

サブプレートニューロンのマウス大脳皮質形成期における新規の機能

丸山 千秋¹, 岡本 麻友美², 岡戸 晴生³, 宮田 卓樹², 前田 信明¹ (¹都医学研・神経回路形成, ²名古屋大学大学院・医・細胞生物, ³都医学研・神経細胞分化)



1W20-3 [9:35]

生体における神経細胞の極性形成機構

貝淵 弘三, Xu Chundi, 高野 哲也 (名古屋大学医学系研究科)

1W20-4 [9:53]

大脳皮質間神経回路形成における軸索数の制御機構Alexander Son¹, 須藤 文和², 鳥居(橋本) 和枝¹, Pasko Rakic³, Pat Levitt⁴, 鳥居 正昭¹ (¹CNMC・神経科学研究センター,²国立精神・神経医療研究センター・神経研,³イェール大・医学部・神経生物学,⁴南カリフォルニア大・医学部・小児科学)

1W20-5 [10:18]

マウス発生期脳において移動ニューロンの進む方向と目的地を制御するメカニズム

仲嶋 一範 (慶應・医・解剖)

1W20-6 [10:33]

22q11欠損症候群モデルマウスにおける介在神経細胞移動の異常

谷垣 健二 (滋賀成人病センター 研究所)

1W20-7 [10:51]

神経認知障害関連因子FoxG1による大脳皮質回路形成機構

三好 悟一 (ニューヨーク大)

1W20-8 [11:09]

皮質脳室帯由来グリア前駆細胞のダイナミックな移動様式田畑 秀典¹, 佐々木 恵², 稲熊 裕¹, 伊東 秀記¹, 竹林 浩秀³, 依馬 正次⁴, 池中 一裕⁵, 永田 浩一¹, 仲嶋 一範² (¹愛知県心身障害者コロニー・発達障害研・神経制御,²慶應大・医・解剖,³新潟大院・医歯学総合・神経生物,⁴滋賀医大・動物生命科学研究所,⁵生理研・分子神経)

Conclusion [11:27]

仲嶋 一範 (慶應義塾大学)

1W21 第21会場(神戸国際会議場 5F 504+505会議室) 9:00-11:30 [J]

JSTによる科学コミュニケーション研修プログラム(基礎、メディア、対話力)

オーガナイザー：加納 圭 (滋賀大学)

田中 幹人 (早稲田大学)

Introduction [9:00]

加納 圭 (滋賀大学)

1W21-1 [9:05]

研究者による科学コミュニケーション小泉 周¹, 天元 志保² (¹自然科学研究機構,²知的財産マネジメント研究会・知識流動システム分科会)

1W21-2 [9:40]

科学コミュニケーション基礎研修の概要

戸田山 和久 (名古屋大・院情報・社会システム情報学)

1W21-3 [10:15]

メディアトレーニングの体験

田中 幹人 (早大・政研・ジャーナリズムコース)

1W21-4 [10:50]

対話力トレーニングプログラム加納 圭^{1,2}, 水町 衣里¹ (¹滋賀大・教育・科学コミュニケーション,²京大・iCeMS・科学コミュニケーション)

Conclusion [11:25]

田中 幹人 (早稲田大学)

1W22	第22会場(神戸国際展示場 2F 2A会議室)	9:00-11:30 [J]
健康度を最適化する成育環境と個体の干渉原理		
オーガナイザー：久保田 健夫 (山梨大学)		
Introduction		[9:00]
久保田 健夫 (山梨大学)		
1W22-1		[9:05]
脳発達過程におけるメチル化DNA結合タンパク質MeCP2による遺伝子発現調節機構		
三宅 邦夫, 久保田 健夫 (山梨大・院・環境遺伝)		
1W22-2		[9:28]
糖刺激によるBRD4-ヒストンアセチル化依存的転写伸長の増進機構		
望月 和樹 ¹ , 合田 敏尚 ² , 久保田 健夫 ³ (¹ 山梨大学 生命環境学部 地域食物科学科, ² 静岡県立大学 食品栄養科学部 栄養生命科学科, ³ 山梨大学 医学部 環境遺伝医学講座)		
1W22-3		[9:51]
2つの出生後早期肥満モデルマウスにおける糖代謝制御と生活習慣病発症への影響について		
細田 洋司 ¹ , 杜 沁文 ² , 宮里 幹也 ³ , 寒川 賢治 ³ (¹ 国循・研究所・再生医療部, ² 三重大・院医・生殖病態生理学, ³ 国循・研究所・生化学部)		
1W22-4		[10:14]
妊娠前期母体低栄養によって引き起こされる仔の絶食応答反応における変化		
佐藤 憲子 (東京医科歯科大学・難治疾患研究所・分子疫学・環境エピゲノム)		
1W22-5		[10:37]
妊娠中の摂取カロリー制限母ラットからの出生仔でみられたグルココルチコイドフィードバックの異常と次世代仔への影響		
根本 崇宏 ¹ , 藤村 務 ² , 加賀 直子 ³ , 高 ひかり ³ , 上野 隆 ³ , 柿沼 由彦 ¹ (¹ 日本医大・生理(生体統御), ² 東北薬科大学臨床分析化学, ³ 順天堂大学)		
総合討論		[11:00]
1W24	第24会場(神戸国際展示場 3F 3A会議室)	9:00-11:30 [J]
RNA機能を制御する酵素・複合体再考		
オーガナイザー：金井 昭夫 (慶應義塾大学) 程 久美子 (東京大学)		
Introduction		[9:00]
金井 昭夫 (慶應義塾大学)		
1W24-1		[9:03]
RNA病における異常スプライシングとその治療戦略		
片岡 直行 ¹ , 吉田 真弓 ² , 宮内 健常 ³ , 大江 賢治 ² , 薄井 知美 ¹ , 鈴木 勉 ³ , 萩原 正敏 ² (¹ 京都大学医学研究科 メディカルイノベーションセンター, ² 京都大学医学研究科 生体構造医学講座 形態形成機構学講座, ³ 東京大学 工学系研究科 化学生命工学専攻, ⁴ 東京医科歯科大学 大学院医学研究科形質発現分野)		
1W24-2		[9:27]
RISCの形成と機能の一分子観察		
泊 幸秀 (東大・分生研)		
1W24-3		[9:51]
哺乳類細胞における、アポトーシス誘導によるRNAサイレンシング調節因子TRBPの機能変換		
高橋 朋子 ¹ , 宮川 拓也 ² , 善野 修平 ³ , 田之倉 優 ² , 程 久美子 ¹ (¹ 東大・院理・生物科学, ² 東大・院農・応用生命化学, ³ 前橋工科大・院工・生物工学)		
1W24-4		[10:15]
RNA編集酵素ADARによるmiRNAプロセッシングの制御		
飯笹 久 (鳥根大学医学部微生物学講座)		



1W24-5 [10:39]

超好熱性アーキア *Pyrococcus furiosus* における rRNA 及び tRNA 前駆体のプロセシング因子の系統的な解析今井 淳之介^{1,2}, 佐藤 朝子¹, 野呂 絵美子¹, 富田 勝^{1,2,3}, 森 大^{1,2}, 金井 昭夫^{1,2,3} (慶大・先端生命研,²慶大・政策・メディア,³慶大・環境情報)

1W24-6 [11:03]

Toll様受容体によるRNA認識におけるRNAプロセシングの役割

三宅 健介 (東京大学)

Conclusion [11:27]

程 久美子 (東京大学)

1W2-p 第2会場(神戸ポートピアホテル本館B1F 借染1) 14:00-16:30 [J/E]

染色体の機能・構築原理オーガナイザー：加納 純子 (大阪大学)
深川 竜郎 (大阪大学)

Introduction [14:00]

加納 純子 (大阪大学)

1W2-p-1 [14:05]

サブテロメアの新規機能の解明田代 三喜¹, 半田 哲也², 松田 厚志^{3,4}, 坂 琢人¹, 瀧川 徹², 宮里 和実¹, 石井 浩二郎⁴, 久郷 和人⁵, 太田 邦史⁵, 平岡 泰^{3,4}, 升方 久夫⁶, 加納 純子¹ (慶大・蛋白研,²阪大・院理,³情報通信研究機構・未来ICT研究所,⁴阪大・院生命機能,⁵東大・院総合文化)

1W2-p-2 [14:25]

SCAIはRif1の機能を調節することによって二本鎖切断損傷の相同組換え修復を促進する

磯部 真也, 大久保 義真, 石本 祥平, 長尾 恒治, 小布施 力史 (北海道大学 大学院先端生命科学研究院 分子細胞生物学研究室)

1W2-p-3 [14:45]

Interaction with G-quadruplex structures forms a basis for Rif1-mediated regulation of DNA replication, transcription and chromatin architectureHisao Masai¹, Yutaka Kanoh¹, Seiji Matsumoto¹, Naoko Kakusho¹, Rino Fukatsu¹, Kenji Moriyama¹, Nobuaki Kono², Keisuke Iida³, Kazuo Nagasawa³, Koji Masuda⁴, Claire Renard-Guillet⁴, Katsuhiko Shirahige⁴, Satoshi Yamazaki¹, Naoko Yoshizawa¹ (Dept. of Genome Med., Tokyo Met. Inst. Med. Sci.,²Inst. for Adv.Bios., Keio Univ.,³Dept. of Biotech. Life Sci., Fac. of Tech., Tokyo Univ. of Agric. Tech.,⁴Lab. of Genome Str. and Function, Res. Center for Epigenetic Disease, Institute of Mol. and Cell. Biosci., Univ. of Tokyo,)

1W2-p-4 [15:05]

Transcriptional regulation by cohesin loaderKazuhiro Akiyama¹, Masashige Bando¹, Katsuhiko Shirahige^{1,2} (Research Center for epigenetic disease, IMCB, The University of Tokyo,²CREST, JST)

1W2-p-5 [15:25]

セントロメアの異所的確立と世代を越えた維持石井 浩二郎¹ (阪大・生命機能,²阪大・未来戦略)

1W2-p-6 [15:45]

キネトコア形成の分子機構

深川 竜郎 (大阪大学)

1W2-p-7 [16:05]

分裂期染色体の構築原理

平野 達也 (理研・平野染色体ダイナミクス)

Conclusion [16:25]

深川 竜郎 (大阪大学)

1W3-p 第3会場(神戸ポートピアホテル 本館 B1F 借室2) 14:00-16:30 [J]
多機能オルガネラ・ミトコンドリアの動的振る舞いによる生命機能制御

 オーガナイザー：石原 直忠 (久留米大学)
 小柴 琢己 (九州大学)

1W3-p-1 [14:00]
ミトコンドリアと抗ウイルスシグナル
 小柴 琢己 (九大・院理・生物学)

1W3-p-2 [14:25]
PINK1の活性化とカスパーゼ非依存性の細胞死
 岡 敏彦 (立教大・理・生命理学)

1W3-p-3 [14:50]
ミトコンドリア分裂の調節機構
 瀬崎 博美 (ジョーンズホプキンス大学医学部)

1W3-p-4 [15:20]
生細胞内ATP濃度のダイナミクス・分布・多様性
 今村 博臣 (京大・生命科学)

1W3-p-5 [15:45]
ミトコンドリアの膜とDNAの協調的かつ動的な制御機構
 石原 孝也, 石原 直忠 (久留米大・分子生命研・高分子化学)

1W3-p-6 [16:05]
Bcl-2ファミリータンパク質を介したペルオキシソーム形成制御
 細井 謙一郎¹, 宮田 暖¹, 向井 悟¹, 古木 聡美¹, Emily H. Cheng², 藤本 幸夫^{1,3} (九大・院理・生物学, ²MSKCC・病理学, ³九大・生医研)

総合討論 [16:25]
1W4-p 第4会場(神戸ポートピアホテル 本館 B1F 借室3) 14:00-16:30 [E]
Collaborative Regulatory Mechanism between Cell Differentiation and Gene Expression in Eulalary Cells

 Organizers : Takashi Ito (Nagasaki University)
 Yoshiaki Ohkuma (Nagasaki University)

Introduction [14:00]

Takashi Ito (Nagasaki University)

1W4-p-1 [14:03]
SMARCD1 is an ATP-dependent stimulator of the nucleosomal acetyltransferase CBP, resulting in transcriptional activation

Masamichi Doiguchi, Takeya Nakagawa, Takashi Ito (Dept. of Biochemistry, Nagasaki University School of Medicine)

1W4-p-2 [14:14]
Dzip3 regulates developmental genes in mouse embryonic stem cells by reorganizing 3D chromatin conformation

 Daishi Inoue¹, Tatsuharu Sato², Aihara Hitoshi¹, Mizusaki Hirofumi¹, Masamichi Doiguchi¹, MIKI Higashi¹, Mlyanishi Takayuki³, Okuda Akihiko⁴, Nakagawa Takeya¹, Ito Takashi¹ (¹Dept. of Bioch., Med. Sch., Univ. of Nagasaki, ²Dept. of Ped., Med. Sch., Univ. of Nagasaki, ³Dept. of Env., Univ. of Nagasaki, ⁴Univ. of Saitama)

1W4-p-3 [14:22]
Manipulation of KLF4 expression reveals a mechanistic insight into an intermediate state of reprogramming

 Koji Hisatake¹, Nugroho Fransiska Lilliani¹, Emi Shiomitsu¹, Manami Ohtaka², Aya Fukuda¹, Mahito Nakanishi², Ken Nishimura¹ (¹Lab. of Gene Reg., Faculty of Med., Univ. of Tsukuba, ²Biotech. Res. Inst. Drug Discov., AIST)



1W4-p-4 [14:37]

Max known as a Myc indispensable partner protein functions as a molecular blockade of meiotic entry
Akihiko Okuda, Ayumu Suzuki, Masataka Hirasaki, atsushi Ueda (Div. of Dev. Biol., RCGM, Saitama Med. Univ.)

1W4-p-5 [14:52]

Inflammatory signal regulation at RNA level

Hiroshi Asahara^{1,2}, Tomoki Chiba¹, Kentaro Abe¹, Yoshiaki Ito¹ (¹Dept. of Syst. BioMed., TMDU, ²AMED, CREST)

1W4-p-6 [15:07]

Local production of S-adenosylmethionine for local consumption to promote and to regulate methylation of chromatin and beyond

Kazuhiko Igarashi¹, Masayuki Ebina¹, Hiroki Shima¹, Yasutake Katoh^{1,2} (¹Dept. Biochem., Grad. Sch. Med., Tohoku Univ., ²Tohoku Med. Megabank, Tohoku Univ.)

1W4-p-7 [15:22]

Mediator complex cooperatively regulates transcription of retinoic acid-target genes with Polycomb repressive complex PRC2 during neuronal differentiation

Yoshiaki Ohkuma^{1,2}, Satoshi Iida¹, Taiki Tsutsui^{1,3}, Yutaka Hirose¹, Rikiya Fukasawa¹ (¹Lab. Gene Reg., Grad. Sch. Med. & Pharm. Sci., Univ. Toyama, ²Dept. Biochem., Nagasaki Univ. Sch. of Med., ³Dept. Cell. & Mol. Med., UCSD Sch. Me.)

1W4-p-8 [15:37]

Role of Human Mediator Subunit Med26 in Transcription Elongation

Hidehisa Takahashi¹, Joan W. Conaway², Ronald C. Conaway², Shigetugu Hatakeyama¹ (¹Dept. of Biochem. Hokkaido Univ. Grad. Sch. of Med., ²Stowers Institute for Medical Research)

1W4-p-9 [15:52]

Noncanonical histone-containing particles in dynamic chromatin

Jia Fei¹, Mai T. Khuong¹, Sharon E. Torigoe¹, Christopher R. Brown², Hinrich Boeger², Haruhiko Ishii³, Bing Ren³, James T. Kadonaga¹ (¹UCSD, ²UC Santa Cruz, ³Ludwig Institute, UCSD)

Conclusion [16:27]

Yoshiaki Ohkuma (Nagasaki University)

1W5-p 第5会場(神戸ポートピアホテル本館B1F和楽) 14:00-16:30 [J/E]

稀少疾患の分子病態メカニズム

オーガナイザー：松本 直通(横浜市立大学)
白髭 克彦(東京大学)

1W5-p-1 [14:00]

Significance of Rare Disease Research

Kosuke Izumi, Katsuhiko Shirahige (IMCB, Univ. of Tokyo)

1W5-p-2 [14:20]

エンドソーム系の平衡の破綻：機能亢進型SAMD9変異によるMIRAGE症候群

鳴海 覚志¹, 天野 直子¹, 石井 智弘¹, 勝又 規行², 福澤 龍二³, 芝田 晋介⁴, 岡野 栄之⁴, 清水 厚志⁵, 三宅 紀子⁶, 松本 直通⁶, 長谷川 奉延¹ (¹慶大・医・小児科, ²成育医療研究センター・分子内分泌, ³東京都立小児医療センター・検査科, ⁴慶大・医・生理学, ⁵東北メディカル・メガバンク機構, ⁶横浜市大・医・遺伝学)

1W5-p-3 [14:45]

ORAI1遺伝子優性変異は細管集合体ミオパチーを来す

西野 一三(国立精神・神経医療研究センター・神経研・疾病一部)

1W5-p-4 [15:10]

RASopathiesの新規原因検索とモデルマウス作製

青木 洋子¹, 井上 晋一¹, 新堀 哲也¹, 松原 洋一² (¹東北大・院医・遺伝医療学分野, ²国立成育医療センター)

1W5-p-5	[15:35]
From Cohesinopathies to Transcriptomopathies: Insights from Cornelia de Lange Syndrome and Related Diagnoses	
Ian D. Krantz (The Children's Hospital of Philadelphia and the Perelman School of Medicine at the University of Pennsylvania)	
1W5-p-6	[16:05]
Somatic mutations in the MTOR gene cause focal cortical dysplasia type IIb	
Naomichi Matsumoto (Dept. of Hum. Genet., Grad. Sch. of Med., Yokohama City Univ)	
1W6-p	14:00-16:30 [J]
第6会場(神戸ポートピアホテル本館 B1F 生田)	
異種間比較が解き明かす生命システムの普遍性と多様性	
オーガナイザー: 竹内 隆 (鳥取大学) 田守 洋一郎 (国立遺伝学研究所)	
Introduction	[14:00]
竹内 隆 (鳥取大学)	
1W6-p-1	[14:03]
多能性幹細胞の異種環境における発生限界	
山口 智之 (東大・医科研・幹細胞治療)	
1W6-p-2	[14:21]
肺から非呼吸性浮き袋への形態進化に関連したエンハンサーの分化	
嵯峨井 知子, 城石 俊彦 (遺伝研・系統生物セ・哺乳動物)	
1W6-p-3	[14:39]
羊膜類脳進化における神経幹・前駆細胞の動態の変化	
野村 真 (京都府立医大・院・神経発生)	
1W6-p-4	[14:57]
頭部再生能力におけるプラナリア異種間比較	
梅園 良彦 (兵県大・院生命理)	
1W6-p-5	[15:15]
マウスとイモリとを比較して再生能力の違いを決める機構を探る	
竹内 隆, 東 翔平, 雨宮 由季, 林 利憲 (鳥取大・医・生命科学)	
1W6-p-6	[15:33]
治るか治らないか、それが問題だ: ショウジョウバエとゼブラフィッシュにおける組織修復研究からの展望	
畷 史幹 (理化学研究所)	
1W6-p-7	[15:51]
何が哺乳類の冬眠を可能にするのか? ~前冬眠期における、冬眠のための体組織リモデリングの同定	
山口 良文 ^{1,2} , 茶山 由一 ¹ , 安藤 理沙 ¹ , 重信 秀治 ³ , 姉川 大輔 ¹ , 藤本 貴之 ¹ , 田村 豊 ⁴ , 三浦 正幸 ^{1,5} (¹ 東大・薬・遺伝, ² さきがけ・JST, ³ 基礎生物学研究所, ⁴ 福山大・薬, ⁵ クレスト・日本医療研究開発機構)	
1W6-p-8	[16:09]
アフリカの奇妙な齧歯類「ハダカデバネズミ」 ~がん化耐性・長寿の不思議~	
三浦 恭子 ^{1,2} (¹ 北海道大学 遺伝子病制御研究所, ² JST さきがけ)	
Conclusion	[16:27]
田守 洋一郎 (国立遺伝学研究所)	

1W7-p 第7会場(神戸ポートピアホテル本館B1F布引) 14:00-16:30 [J]

NADとFADの分子生物学：水溶性ビタミンの多面的理解に向けて

オーガナイザー：中畑 泰和 (奈良先端科学技術大学院大学)
日野 信次朗 (熊本大学)

Introduction [14:00]

日野 信次朗 (熊本大学)

1W7-p-1 [14:03]

概日時計機構および細胞老化におけるNAD⁺/NAMPTの影響
中畑 泰和, 芦森 温茂, 松井 貴輝, 別所 康全 (奈良先端大・バイオ)

1W7-p-2 [14:24]

概日時計タンパク質CRYのFAD結合ポケットに作用する低分子化合物の発見
廣田 毅 (名大・ITbM)

1W7-p-3 [14:45]

NAD合成酵素Nmnat3の生理的・病理的役割
中川 崇 (富山大・先端ライフサイエンス拠点)

1W7-p-4 [15:06]

What changes NAD⁺ levels? — Quantitative analysis of the NAD⁺ metabolic flow
原 伸正 (島根大・医学部・生化学)

1W7-p-5 [15:27]

水溶性ビタミン類の可視化と機能イメージングへの応用
兵藤 文紀, 中路 陸子, 江藤 比奈子, 伊藤 慎治, 内海 英雄 (九大・レドックスナビ拠点)

1W7-p-6 [15:48]

FAD依存性ヒストン脱メチル化酵素LSD1による骨格筋代謝制御
阿南 浩太郎, 日野 信次朗, 坂元 顕久, 長岡 克弥, 高瀬 隆太, 興梠 健作, 中尾 光善 (熊本大・発生研・細胞医学)

1W7-p-7 [16:09]

脂肪細胞NAD⁺合成系による全身性の糖・エネルギー代謝制御
吉野 純 (ワシントン大学医学部内科)

1W8-p 第8会場(神戸ポートピアホテル本館B1F布引) 14:00-16:30 [J]

生理活性物質ポリアミンから疾病と健康を考える

オーガナイザー：村井 法之 (東京慈恵会医科大学)
松本 光晴 (協同乳業株式会社研究所)

Introduction [14:00]

村井 法之 (東京慈恵会医科大学)

1W8-p-1 [14:06]

アンチザイム2とc-MYCの核小体共局在とユビキチン非依存的分解
村井 法之, 村上 安子, 松藤 千弥 (慈恵医大・分子生物)

1W8-p-2 [14:30]

大腸癌および非小細胞肺癌の手術前尿中ジアセチルスペルミン値と予後の関連
平松 恭子¹, 高橋 祐介^{2,3}, 堀尾 裕俊², 高橋 慶一⁴, 坂口 幸治^{2,5}, 森谷 俊介¹, 寺岡 秀興¹, 齊藤 文江¹, 高浜 恵美¹, 川喜田 正夫¹
(¹東京都医学研・幹細胞, ²都立駒込病院・呼吸器外科, ³帝京大・医・呼吸器外科, ⁴都立駒込病院・大腸外科, ⁵長野県立須坂病院・呼吸器外科)

1W8-p-3 [14:54]

ポリアミン代謝の抑制はアクロレイン毒性の軽減に関わる
植村 武史^{1,3}, 中村 瑞穂¹, 坂本 明彦², 照井 祐介², 富取 秀行², 柏木 敬子², 五十嵐 一衛^{1,3} (¹アミンファーマ研, ²千葉科学大・薬, ³千葉大院・薬)

1W8-p-4 [15:18]

糖尿病合併症に対する生体内ポリアミンの防御作用

松本 靖彦¹, 東 恭平², 石井 雅樹¹, 五十嵐 一衛², 関水 和久¹ (¹東京大学・薬学系研究科, ²千葉大学・薬学研究院)

1W8-p-5 [15:42]

腸内常在菌が産生するポリアミンの保健効果

松本 光晴 (協同乳業・技術開発)

1W8-p-6 [16:06]

ポリアミンによりもたらされる長寿の生物学的背景

早田 邦康 (自治医大・さいたま医療センター)

1W9-p 第9会場(神戸ポートピアホテル 本館B1F 菊水) **14:00-16:30 [E]**

Zinc Signaling

Organizers : Toshiyuki Fukada (Tokushima Bunri University)
Taiho Kambe (Kyoto University)

1W9-p-1 [14:00]

Zinc signaling: Overview

Toshiyuki Fukada (Pharma. Sci., Tokushima Bunri Univ.)

1W9-p-2 [14:10]

The Zinc Sensing Receptor in Health and Disease

Michal Hershfinkel (Department of Physiology and Cell Biology, Faculty of Health Science, Ben-Gurion University of the Negev, Israel)

1W9-p-3 [14:40]

Bis(hinokitiolato)zinc complex ([Zn(hkt)2]) with blood glucose lowering effect has an impact on the insulin signaling pathway

Yuki Naito¹, Yutaka Yoshikawa^{1,2}, Hiroyuki Yasui¹ (¹Dept. of Anal. Bioinorg. Chem., Div. of Anal. Phys. Chem., Kyoto Pharm. Univ., ²Dept. of Health Sports Nutr., Faculty of Health Welfare, Kobe Women's Univ.)

1W9-p-4 [15:00]

Novel mutations in ZnT2 involved in the pathogenesis of transient neonatal zinc deficiency

Naoya Itsumura, Taiho Kambe (Grad. Sch. of Biostudies, Kyoto Univ.)

1W9-p-5 [15:20]

Important role of zinc transporter ZIP10 in morphogenesis and homeostasis of skin epidermis

Bum-ho Bin¹, Jinhyuk Bhin², Eun-Gyung Cho¹, Toshiyuki Fukada³ (¹Bioscience Research Institute, Amorepacific Corporation R&D Center, ²Department of Chemical Engineering, POSTECH., ³Faculty of Pharmaceutical Sciences, Tokushima Bunri University)

1W9-p-6 [15:40]

The roles of zinc transporters in the transports of cadmium and manganese in their target organs

Hitomi Fujishiro-Donai, Seiichiro Himeno (Fac. of Pharm. Sci., Tokushima Bunri Univ.)

1W9-p-7 [16:00]

Zinc transporter ZIP13 regulates the adipocyte browning

Ayako Fukunaka¹, Yoshio Fujitani¹, Toshiyuki Fukada², Shingo Kajimura³, Hirotaka Watada¹ (¹Grad. Sch. of Med., Juntendo Univ., ²Pharma. Sci., Tokushima Bunri Univ., ³UCSF Diabetes center)

1W9-p-8 [16:20]

Zinc Signaling and Zinc Homeostasis

Taiho Kambe (Dep. of Appl. Mol. Biol., Grad. Sch. of Biostudies, Kyoto Univ.)



1W10-p 第10会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F トパーズ)

14:00-16:30 [J]

性染色体とエピジェネティクスオーガナイザー：佐渡 敬(近畿大学)
多田 政子(鳥取大学)**Introduction**

[14:00]

佐渡 敬(近畿大学)

1W10-p-1

[14:05]

機能欠損型Xist RNAによって構築される偽ヘテロクロマチン
佐渡 敬(近畿大・農・バイオ)**1W10-p-2**

[14:25]

アリル特異的ChIP-seq法によるマウス不活性化X染色体のクロマチン動態の解析

長尾 恒治¹, 榊原 祐樹², 柴田 幸子¹, 野澤 竜介¹, 坂口 武久², 木村 宏³, 佐渡 敬⁴, 小布施 力史¹ (¹北大・先端生命, ²九大・生医研, ³東工大・生命理工, ⁴近大・農)**1W10-p-3**

[14:45]

核内ゲノム高次構造の発現制御
平谷 伊智朗(理研・CDB)**1W10-p-4**

[15:05]

減数分裂期の性染色体不活性化におけるエピジェネティック制御

長谷川 和輝¹, Hosu Sin², 行川 賢³ (¹スタンフォード大学・医, ²スタンフォード大学・発生生物, ³シンシナティ大学・生殖科学)**1W10-p-5**

[15:25]

カイコのメス化因子はW染色体から作り出されるpiRNAである

勝間 進, 木内 隆史, 川本 宗孝, 庄司 佳祐, 李 允求, 菅野 雄大, 福井 崇弘, 嶋田 透(東大・院農・生産環境)

1W10-p-6

[15:45]

鳥類の性染色体におけるエピジェネティックな遺伝子発現制御

石下 聡¹, 辰本 将司¹, 木下 圭司¹, 浅野 有美², 多田 政子³, 郷 康広², 松田 洋一^{1,4} (¹名大・院生命農学・鳥類バイオサイエンス研究センター, ²自然科学研究機構・新分野創成センター・ブレインサイエンス, ³鳥大・染色体工学研究センター, ⁴名大・院生命農学・動物遺伝)**1W10-p-7**

[16:05]

ニワトリ胚発生における染色体レベルの活性制御

多田 政子(鳥大・染色体工学研究センター)

総合討論

[16:25]

1W11-p 第11会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F エメラルド)

14:00-16:30 [J]

ユビキチンシステムが切り開く新たな生命現象オーガナイザー：嘉村 巧(名古屋大学)
島山 鎮次(北海道大学)**1W11-p-1**

[14:00]

ユビキチン化を受けた構造異常タンパク質の核外排出分子機構の解析

平山 尚志郎¹, 杉原 宗親², 櫻井 靖之¹, 森戸 大介², 家村 俊一郎³, 夏目 徹⁴, 永田 和宏², 村田 茂穂¹ (¹東大・院薬・蛋白代謝, ²京産大・総合生命, ³福島医大・医産TRセンター, ⁴産総研・創薬分子プロファイリング研究センター)**1W11-p-2**

[14:15]

ATMは転写部位の近傍でDSBが生じると、転写促進因子のENLをリン酸化して、転写抑制因子のポリコームを呼び込み、転写を抑制する

宇井 彩子^{1,2}, 安井 明¹ (¹東北大学 加齢医学研究所 加齢ゲノム制御プロテオーム研究部門, ²聖マリアンナ医科大学 医学研究科 応用分子腫瘍)

1W11-p-3	[14:33]
LUBACアセサリ分子SHARPINとHOIL-1Lがプログラム細胞死抑制において果たす機能的差異の解析	
清水 寛司, 藤田 宏明, 岩井 一宏 (京大・医学研究科)	
1W11-p-4	[14:48]
TR-TUBEを用いた膜結合型F-box蛋白質FBXO27の機能解析	
吉田 雪子 ¹ , 村上 有沙 ¹ , 川脇 純子 ¹ , 佐伯 泰 ² , 松田 憲之 ¹ , 田中 啓二 ² (¹ 都医学研・ユビキチン, ² 都医学研・蛋白質代謝)	
1W11-p-5	[15:06]
Fボックスタンパク質Ucc1による代謝制御機構の解析	
中務 邦雄, 嘉村 巧 (名大・院理・生命理学)	
1W11-p-6	[15:24]
UCLH1はHIF-1αの脱ユビキチン化を介してがんの遠隔転移を亢進する	
後藤 容子 ¹ , 小林 稔 ¹ , 広田 喜一 ² , 谷本 圭司 ³ , 平岡 真寛 ¹ , 原田 浩 ^{1,4,5} (京大院医 放射線腫瘍学・画像応用治療学, ² 関西医大 麻酔科学, ³ 広大 原医研, ⁴ 京大 白眉センター, ⁵ 科学技術振興機構(JST) さきがけ)	
1W11-p-7	[15:39]
脳下垂体の腫瘍性疾患クッシング病における脱ユビキチン化酵素USP8の活性化変異	
駒田 雅之, 川口 紘平, Arif Ibrahim Ardisasmita, 福嶋 俊明 (東工大・生命理工)	
1W11-p-8	[15:57]
非がん細胞のFbxw7はがんニッチ形成を抑制する	
弓本 佳苗 ¹ , 秋吉 清百合 ² , 上尾 裕紀 ² , 小野山 一郎 ¹ , 上尾 裕昭 ² , 大野 真司 ⁴ , 森 正樹 ³ , 三森 功士 ² , 中山 敬一 ¹ (¹ 九大・生医研・分子医科学, ² 九州大学・別府病院, ³ うえお乳腺外科, ⁴ 九州がんセンター, ⁵ 大阪大学・大学院医学系研究科・外科学講座消化器外科)	
1W11-p-9	[16:12]
TRIMファミリーユビキチンリガーゼによる生体制御機構	
畠山 鎮次 (北大・院医・生化学)	
1W12-p	14:00-16:30 [J/E]
第12会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F ダイアモンド)	
ゲノムに組み込まれたウイルス：その機能と進化	
オーガナイザー：小島 健司 (東京大学)	
1W12-p-1	[14:00]
ワニゲノム解読から明らかになった内在性レトロウイルスの多様性	
小島 健司 ^{1,2,3} (¹ 東大・院新領域・メディカル情報, ² 東大・医科研, ³ Genetic Information Research Institute)	
1W12-p-2	[14:25]
iPS細胞から考えるヒトとヒト内在性レトロウイルスの関係	
大貫 菜里 (ルートヴィヒ・マクシミリアン大学ミュンヘン)	
1W12-p-3	[14:50]
RNAウイルス配列の内在化により宿主が獲得したウイルス抵抗性の解明	
本田 知之, 朝長 啓造 (京大・ウイルス研・ヒトがん)	
1W12-p-4	[15:15]
ヘルペスウイルスと一体化した巨大DNAトランスポゾン<i>Albatross</i>	
井上 雄介 ¹ , 佐友 友則 ¹ , 相川 拓海 ¹ , 森下 真一 ² , 成瀬 清 ³ , 島田 敦子 ¹ , 古賀 彰彦 ⁴ , 武田 洋幸 ¹ (¹ 東大・院理・生物科学, ² 東大・新領域・情報生命, ³ 基生研・バイオリソース, ⁴ 京大・霊長類研究所)	
1W12-p-5	[15:40]
プロファージによる遺伝子再構築	
佐藤 勉 ^{1,2} , 安部 公博 ² (¹ 法政大・生命・生命, ² 法政大・マイクロナノテクセンター)	
1W12-p-6	[16:05]
TBA	
中川 一路 (京都大学大学院医学研究科)	

**1W13-p** 第13会場(神戸ポートピアホテル 南館 81F ルビー)

14:00-16:30 [J]

実用化を見据えた様々な生体関連分子工学の基礎および応用

オーガナイザー：赤沼 哲史(東京薬科大学)
新井 亮一(信州大学)

Introduction

[14:00]

赤沼 哲史(東京薬科大学)

1W13-p-1

[14:03]

希土類を水中で発光させるための分子設計
長谷川 美貴(青山学院大・理工)

1W13-p-2

[14:21]

結晶スポンジ法による微量化合物の構造解析
猪熊 泰英(東大・院工・応用化学)

1W13-p-3

[14:39]

核酸の"文字"を増やす人工塩基対技術の応用展開
木本 路子, 平尾 一郎 (IBN)

1W13-p-4

[14:57]

抗体タンパク質からの蛍光免疫センサー Quenchbodyの構築

上田 宏¹, 鄭 熙陳¹, 松本 健司², 板山 修也³, 阿部 亮二^{1,4}, 董 金華¹, 新藤 充² (¹東工大・資源研, ²九大・先導研, ³東大・院工, ⁴ウシオ電機)

1W13-p-5

[15:15]

系統学的データを用いた祖先型手法による効率的酵素耐熱化設計
山岸 明彦(東薬大・生命)

1W13-p-6

[15:33]

人工蛋白質ナノブロック(PN-Block)による自己組織化ナノ構造複合体の創出

小林 直也¹, 木村 尚弥¹, 新井 亮一^{1,2} (¹信州大・繊維・応用生物, ²信州大・ICCCER・IBS)

1W13-p-7

[15:51]

β-Annulusペプチドの自己集合による人工ウイルスキャプシドの創製

松浦 和則(鳥取大院工)

1W13-p-8

[16:09]

単純化遺伝暗号表を用いた進化学によるアミノ酸種限定タンパク質の創出

木賀 大介^{1,2} (¹東工大・院総理工・知能システム科学, ²東工大・地球生命研)

Conclusion

[16:27]

新井 亮一(信州大学)

1W14-p 第14会場(神戸国際会議場 1F メインホール)

14:00-16:30 [J]

Liquid biopsyの新展開

オーガナイザー：落谷 孝広(国立がん研究センター研究所)
田原 栄俊(広島大学)

Introduction

[14:00]

田原 栄俊(広島大学)

1W14-p-1

[14:05]

血液一滴で何がどこまでわかるか：体液診断の可能性を展望する

落谷 孝広(国立がん研セ・研 分子細胞治療)

1W14-p-2

[14:40]

NSAH(非アルコール性脂肪性肝炎)の糖鎖バイオマーカー

三善 英知, 鎌田 佳宏(阪大院・医・機能診断科学)

1W14-p-3 [15:15]

Liquid biopsyのための血中miRNAマーカーについての日本における大規模研究の現状

滝澤 聡子², 落谷 孝広¹ (¹国立がん研究センター・研究所・分子細胞治療研究分野, ²東レ株式会社・先端融合研究所)

1W14-p-4 [15:50]

マイクロRNA・エクソソームを用いた膵がんバイオマーカー

田原 栄俊 (広島大・院医歯薬保健・細胞分子生物)

Conclusion [16:25]

落谷 孝広 (国立がん研究センター研究所)

1W15-p 第15会場(神戸国際会議場3F 国際会議室) **14:00-16:30 [J]**

遺伝子治療の復活

オーガナイザー: 三谷 幸之介 (埼玉医科大学)

金田 安史 (大阪大学)

Introduction [14:00]

金田 安史 (大阪大学)

1W15-p-1 [14:10]

遺伝性疾患に対する遺伝子治療

小野寺 雅史 (国セ・成育・成育遺伝)

1W15-p-2 [14:38]

遺伝子組換えヘルペスウイルスを用いたがんのウイルス療法の臨床開発

藤堂 具紀 (東大・医科研・先端がん治療)

1W15-p-3 [15:06]

パーキンソン病や造血器腫瘍などに対する遺伝子治療の最新動向

小澤 敬也^{1,2} (¹東大・医科研・病院, ²自治医大・免疫遺伝子細胞治療学)

1W15-p-4 [15:34]

不活性化センダイウイルス粒子を用いた癌治療研究と遺伝子治療への応用

金田 安史 (阪大・医・遺治)

1W15-p-5 [16:02]

ゲノム編集技術を利用した遺伝子修復治療の展望

三谷 幸之介 (埼玉医大・ゲノム研・遺伝子治療)

1W16-p 第16会場(神戸国際会議場3F レセプションホール) **14:00-16:30 [J/E]**

プロテオスタシス制御と疾患

オーガナイザー: 養王田 正文 (東京農工大学)

中井 彰 (山口大学)

Introduction [14:00]

養王田 正文 (東京農工大学)

1W16-p-1 [14:02]

タンパク質毒性ストレス応答とDNA損傷ストレス応答の接点

藤本 充章, 中井 彰 (山口大学・院医・医化学)

1W16-p-2 [14:22]

Geranylgeranylacetoneのヘリコバクターピロリ菌HSP70に対する選択的親和性及び形態変化促進

伊藤 英晃¹, Ewa Grave¹, 田村 ありさ¹, 岡本 知也¹, 横田 伸一², 山本 聡², 大高 道郎³ (¹秋田大・院工資・生命科学, ²札幌医大・医・微生物, ³順天堂大・医・消化器内科)

1W16-p-3 [14:42]

Cellular stress regulates the plasticity of lung cancer stem cells by an epigenetic mechanism

鳥越 俊彦, 廣橋 良彦 (札幌医大医学部第一病棟)



1W16-p-4 [15:02]

ゲノムワイドsiRNAスクリーニングによるSOD1の構造制御機構の解明

本間 謙吾, 一條 秀憲 (東大・院薬・細胞情報)

1W16-p-5 [15:22]

メトホルミンは腫瘍局所浸潤CD8T細胞の解糖を促進する

鶴殿 平一郎 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 免疫学)

1W16-p-6 [15:42]

酸化ストレス応答を制御するタンパク質分解

千葉 智樹 (筑波大学・生命環境系)

1W16-p-7 [16:02]

細胞質プロテオスタシス制御を担うグルーブII型シャペロニンの構造と機能

養王田 正文¹, 山本 陽平¹, 阿部 圭佑¹, 宇野 裕子¹, 関口 博史², 小川 直樹³, 佐々木 裕次⁴ (¹東京農工大学, ²高輝度光科学研究センター, ³日本大学, ⁴東京大学)

総合討論 [16:22]

Conclusion [16:27]

中井 彰 (山口大学)

1W19-p 第19会場(神戸国際会議場 5F 501会議室) 14:00-16:30 [J]

多様性・特異性を基盤にした新しい微生物機能とその応用

オーガナイザー: 高木 博史 (奈良先端科学技術大学院大学)

小林 達彦 (筑波大学)

Introduction [14:00]

小林 達彦 (筑波大学)

1W19-p-1 [14:03]

放線菌の新規ペプチドリガーゼ

大利 徹 (北大・院工)

1W19-p-2 [14:26]

触媒活性を有する低分子天然有機化合物

小林 達彦 (筑波大・生命環境・生物機能)

1W19-p-3 [14:49]

微生物のDNAトランスアクション研究から遺伝子工学用酵素開発へ～タンパク質工学による新たな機能創製～

石野 園子, 梶谷 泰之, 渡辺 夏美, 山上 健, 石野 良純 (九大院・農)

1W19-p-4 [15:12]

好熱菌(耐熱性酵素)の低温適応機構

藤原 伸介 (関西学院大・理工・生命科学)

1W19-p-5 [15:35]

酵母におけるプロリン・アルギニン代謝を介した新しい酸化ストレス耐性機構

高木 博史 (奈良先端大・バイオ)

1W19-p-6 [15:58]

糸状菌Aspergillus nidulansの一酸化窒素耐性機構の解明

高谷 直樹 (筑波大・生命環境)

Conclusion [16:21]

高木 博史 (奈良先端科学技術大学院大学)

1W20-p 第20会場(神戸国際会議場 5F 502会議室)

14:00-16:30 [J]
神経細胞の分化と回路形成を司る新たな遺伝子発現制御メカニズム

 オーガナイザー：深井 周也(東京大学)
 吉田 知之(富山大学)

1W20-p-1
[14:00]
神経細胞の多様化に重要な発生期のエピジェネティック制御

 豊田 峻輔^{1,2} (¹山梨大・院総合研究・生理2, ²日本学術振興会PD)

1W20-p-2
[14:20]
神経系RNA結合タンパク質によるシナプス接着因子の時空間的な選択的スプライシング制御

飯島 崇利(東海大・創造科学技術研究機構)

1W20-p-3
[14:40]
線虫CELFファミリー RNA結合タンパク質UNC-75は神経系特異的かつ位置依存的に選択的スプライシングを制御する

 黒柳 秀人¹, 渡辺 要平¹, 鈴木 穰², 萩原 正敏³ (¹医科歯科大・難研, ²東大・院新領域, ³京大・院医)

1W20-p-4
[15:00]
CAP52のexon3スキップと自閉症

 定方 哲史¹, 篠田 陽², 古市 貞一² (¹群馬大・先端ユニット, ²東京理科大・応用生物)

1W20-p-5
[15:20]
ミニエクソンペプチド選択によるシナプスオーガナイザー機能の調節

 吉田 知之^{1,2} (¹富山大・院医・分子神経科学, ²科学技術振興機構・さきがけ)

1W20-p-6
[15:40]
Ila型受容体チロシンホスファターゼδとインターロイキン1受容体タイプのシナプスオーガナイザー間の選択的スプライシング依存的相互作用制御の構造基盤

 山形 敦史^{1,2}, 吉田 知之^{3,4}, 佐藤 裕介^{1,2}, 伊藤(後藤) 桜子^{1,2}, 植村 健^{4,5}, 森 寿³, 三品 昌美⁶, 深井 周也^{1,2} (¹東大・放射光・生命科学, ²CREST, JST, ³富山大・医・分子神経, ⁴PRESTO, JST, ⁵信州大・医・分子細胞生理, ⁶立命館大・脳科学・理工)

1W20-p-7
[16:00]
小脳シナプス形成を制御するGluD2-Cbln1-neurexin接着分子複合体の構造基盤

 植村 健^{1,2}, 佐藤 裕介^{3,3}, 山形 敦史^{2,3}, 吉田 知之¹, 後藤 桜子³, 前田 亜沙美^{2,3}, 城島 知子^{2,3}, 田淵 克彦³, 三品 昌美⁵, 深井 周也^{2,3} (¹信州大・学術院・医・分子細胞生理, ²科学技術振興機構, CREST, ³東京大・放射光・生命科学・構造生物学, ⁴富山大・医・分子神経科学, ⁵立命館大・総合科学技術研究機構・脳科学)

総合討論
[16:20]
1W21-p 第21会場(神戸国際会議場 5F 504+505会議室)

14:00-16:30 [E]
In situ structural biology for the investigation of eukaryotic intracellular protein behaviours

 Organizers : Takanori Kigawa (RIKEN)
 Yutaka Ito (Tokyo Metropolitan University)

1W21-p-1
[14:00]
Protein dynamics in molecular crowding environment elucidated by an extended model-free analysis of NMR relaxation data

 Takanori Kigawa^{1,2} (¹RIKEN QBiC, ²Int. Grad. Sch. of Sci. Eng., Tokyo Tech.)

1W21-p-2
[14:20]
Stability of disulfide bonds of proteins in the cytosolic space analyzed using NMR spectroscopy

 Shuhei Murayama¹, Yoshiaki Enokizono², Ken-ichi Akagi¹, Kohsuke Inomata³, Masahiro Shirakawa¹, Hidehito Tochio² (¹Dept. of Moleng., Grad. Sch. of Eng., Kyoto Univ., ²Dept. of Biophys., Grad. Sch. of Sci., Kyoto Univ., ³Qbic, RIKEN, ⁴Nat. Inst. of Biomed. Innovation)

1W21-p-3
[14:40]
In-cell NMR analysis for protein conformational diversity in mammalian cells

Kohsuke Inomata (QBiC, RIKEN)

1W21-p-4 [15:00]

All-atom Molecular Dynamics Simulations of Proteins and Metabolites under the Crowding Environment in Bacterial Cytoplasm

Isseki Yu^{1,2}, Takaharu Mori¹, Tadashi Ando³, Ryuhei Harada⁴, Jaewoon Jung⁴, Yuji Sugita^{1,2,3,4}, Michael Feig⁵
 (¹Theoretical Molecular Science Laboratory, RIKEN, ²THES Research Group, RIKEN, ³Laboratory for Biomolecular Function Simulation, RIKEN QBiC, ⁴Computational Biophysics Research Team, RIKEN AICS, ⁵Department of Biochemistry and Molecular Biology, and Department of Chemistry, Michigan State University)

1W21-p-5 [15:20]

Bioreactor system for in-cell NMR observation of biological events inside living cells

Noritaka Nishida, Ichio Shimada (Grad. Sch. of Pharm. Sci., Univ. of Tokyo)

1W21-p-6 [15:40]

In situ structural biology by NMR

Yutaka Ito^{1,2} (¹Dept. of Chem., Tokyo Metropolitan Univ., ²CREST/JST)

1W21-p-7 [16:00]

In cells and in vitro studies of ubiquitin, polyubiquitin chains and proteins attached to them.

Masahiro Shirakawa¹, Kohsuke Inomata², Daichi Morimoto¹, Erik Walinda¹, Kenji Sugase¹, Hidehito Tochio³, Shiroh Hutaki¹ (¹Dept. of Mol.Eng., Grad.Sch. of Eng., Kyoto Univ., ²Quant.Biol.Center, RIKEN, ³Dept. of Biophys., Grad.Sch. of Sci., Kyoto, ⁴Div. of Biochem. Inst. for Chem. research, Kyoto Univ.)

Discussion [16:20]

1W22-p 第22会場(神戸国際展示場 2F 2A会議室) 14:00-16:30 [J]

RNA病

オーガナイザー：大野 欽司 (名古屋大学)
 上山 久雄 (滋賀医科大学)

Introduction [14:00]

上山 久雄 (滋賀医科大学)

1W22-p-1 [14:02]

環状RNAの生合成：コーディングRNAから捨てられたノンコーディングRNAが生かされる仕組み

芳本 玲¹, 亀山 俊樹¹, Thomas B. Hansen², Jørgen Kjems², 前田 明¹ (¹藤田保健衛生大・総医研・遺伝子発現機構, ²オーストラリア・分子生物/遺伝学科)

1W22-p-2 [14:28]

スプライシングでのエキソンスキッピングによる先天性覚異常

上山 久雄¹, 村木 早苗², 田邊 詔子³, 山出 新一², 扇田 久和¹ (¹滋賀医大・生化学・分子生物学, ²滋賀医大・眼科, ³中京眼科)

1W22-p-3 [14:52]

スプライシング因子の破綻によるスプライシング異常の分子機構とその予測ツール

大野 欽司 (名大・院医・神経遺伝情報学)

1W22-p-4 [15:16]

骨髄腫瘍におけるRNAスプライス因子体細胞変異

牧島 秀樹 (京大・院医・腫瘍生物学)

1W22-p-5 [15:40]

筋ジストロフィーに対するエクソン・スキップ治療

武田 伸一 (国立精神・神経医療研究センター)

1W22-p-6 [16:04]

先天性難治疾患のスプライシング治療

萩原 正敏 (京大・院医・形態形成機構)

Conclusion [16:28]

大野 欽司 (名古屋大学)

1W24-p 第24会場(神戸国際展示場 3F 3A会議室)	14:00-16:30 [J]
生命への道程：自己集合・自己組織化による秩序形成と創発	
オーガナイザー：大山 隆(早稲田大学) 菊池 洋(早稲田大学)	
Introduction	[14:00]
大山 隆(早稲田大学)	
1W24-p-1	[14:05]
原始的細胞周期をもつベシクル型人工細胞	
菅原 正(神奈川県立理学部)	
1W24-p-2	[14:22]
細胞がもたらす生命の創発：遺伝情報の維持と多様化	
松村 茂祥(富山大・院理工)	
1W24-p-3	[14:39]
RNAの凝集化が引き起こすRNA安定化によるRNAワールド仮説の補強	
梅影 創 ¹ , 菊池 洋 ² (¹ 豊橋技術科学大学, ² 早稲田大学)	
1W24-p-4	[14:56]
DNAとクロマチンの相同性認識と選択的集合	
大山 隆 ^{1,2} , 池田 桃子 ¹ , 黒田 浩太郎 ¹ , 松枝 嵩之 ¹ (¹ 早大院・先進理工, ² 早大・教育・総合科学・生物)	
1W24-p-5	[15:13]
ClpB-DnaK脱凝集シャペロンに見られる、自己集合・自己組織化による機能獲得	
渡辺 洋平 ^{1,2} , 内橋 貴之 ³ , 安藤 敏夫 ³ , 飯野 亮太 ⁴ , 山崎 孝史 ^{2,5} , 中崎 洋介 ¹ , 林 清夏 ⁶ (¹ 甲南大・理工・生物, ² 甲南大・統合ニューロ, ³ 金沢大・理工・数物, ⁴ 岡崎統合バイオ・分子研, ⁵ 甲南大・院自然科学・生命機能科学, ⁶ 甲南大・院自然科学・生物学)	
1W24-p-6	[15:30]
人工細胞の構築に向けて：創発と依存	
上田 卓也(東大・新領域・メディカル情報生命)	
1W24-p-7	[15:47]
走化性シグナル伝達系の自己組織化による細胞運動の制御	
上田 昌宏 ^{1,2} (¹ 阪大・院理・生物科学, ² 理研・QBiC)	
1W24-p-8	[16:04]
動くものを集めるーactive matterとしての生命現象	
住野 豊(東理大・理・応物)	
総合討論	[16:21]
Conclusion	[16:26]
菊池 洋(早稲田大学)	